

する日本人研究者

学術的協働のために

トロント大学政治学PhD課程 芝池 拓臣



研究は一人でできるものではありません。実証分野での共同研究は一般的になってきましたが、いわゆる単著の研究であっても、多くの人のアドバイスなしには完成させられません。私はトロント大学大学院政治学研究科でNGO／NPOが社会的関心に与える影響について研究していますが、その過程でたくさんの方々からアドバイスを頂いてきました。学会はそうした人との繋がりを育む大切な機会を提供してくれます。

学会の本来の役割はコメントを貰うことなのかもしれませんが、ARNOVAやInternational Studies Associationのような大きな学会だと、発表される研究はある程度完成されたものが多いです。そのような環境では、コメントを貰うよりも「こんな研究があるんですよ」という宣伝の意味合いの方が大きくなりがちです。私も昨年のARNOVAで共同研究の発表を行いました。PIはプロジェクトの紹介に重点を置くよう言っていました。ですので、大きな学会では他大学の研究者と個人的に会って話すようにしています。初めてARNOVAに参加したときも、指導教授に勧められて数人の研究者にコンタクトしました。見たことも聞いたこともない院生にわざわざ会ってくれるのか甚だ疑問でしたが、皆さん例外なく相談に乗ってくださいました（大きい学会だと、誰でも「スキマ時間」があるのかもしれません）。

では研究に対する細かいコメントはどこで貰えば良いので

しょうか？キャリアを積んだ教授なら研究会を開くことも可能でしょうが、私のような研究者には困難な話です。そこで役に立つのが、一般公募方式の研究会や小規模学会です。例えば、私の参加したJunior Scholars Forum（スタンフォード大学Center on Philanthropy and Civil Society主催）では、発表者11人それぞれに2人の討論者が付き、50分ほどCenterの関係者から「コメントのシャワー」を浴び続けるという形式でした。参加者全員が発表者のペーパーを事前に読んで来ますので、コメントの質も高く、その後研究を進める上で大いに役立ちました。また、小さいサイズのおかげで、参加者全員と研究を越えた様々な話ができました。

国際学会というと大きな学会のことを考えがちかもしれませんが、北米の大学には多様なバックグラウンドや研究関心を持つ研究者が集まっていますので、小さくても研究関心は国際的です。Junior Scholar Forum以外にも、PhD Seminar、West Coast Nonprofit Data Conference、それから単発的に募集される研究会（例えば、昨年ピッツバーグ大学で開かれたWorkshop on Transnational Networks Amid Global Crisis and Changeに参加しました）など、プロフィールは低くても役に立つ学会はたくさんありますので、興味のある方はいろいろ探してみると良いかもしれません。



Junior Scholar Forum (Stanford PACS)にて